

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19203036

研究課題名(和文) 美術教育文献のアーカイビングに関する発展的研究

研究課題名(英文) Evolving Study concerning Archiving of Art Educational Literature

研究代表者

山口 喜雄 (YAMAGUCHI NOBUO)

宇都宮大学・教育学部・教授

研究者番号：90292573

研究代表者の専門分野：美術教育学

科研費の分科・細目：

キーワード：美術教育、文献資料、熊本文庫、美術教育文献解題、アーカイビング、美術教育史、国際調査、造形教育

### 1. 研究計画の概要

本研究「美術教育文献のアーカイビングに関する発展的研究」は、2004～2006年度科学研究費補助金基盤研究B(1)「日本の美術教科書・美術教育文献資料のアーカイブ化に関する研究」(課題番号16330172を以下、前研究と記す)を基にした継続的かつ発展的な研究である。アーカイブス(archives)とは学習指導要領図画工作・美術や美術科教科書等の公文書・公的記録、アーカイブ(archive)とは個人や民間美術教育団体関係の著作、あるいは美術教育ジャーナルなど複数のファイルの一つにまとめたものをさす。

前研究の目的は、大正・昭和初期及び第二次大戦直後の美術教科書ならびに美術教育関係文献資料(以下、美術教育文献と記す)の空白部分を美育文化協会所蔵の「熊本文庫」のアーカイブ化により解明し、社会的活用にあ資することであった。①データベースの構築、②『日本美術教育主要文献解題』の編纂、③学会等での研究発表、④美術教育文献展覧会、⑤連続公開研究報告会および最終年度にシンポジウム等々の5課題に取り組んだ。文献11,521点をデータ化し報告書I『熊本文庫総目録/KUMAMOTO LIBRARY CATALOGUE』に、そのうち252点の解題を報告書II『日本美術教育主要文献解題/BIBLIOGRAPHICAL NOTES ON KEY LITERATURE ON ART EDUCATION IN JAPAN』として刊行し諸学会等で頒布、5回の連続公開研究報告会とシンポジウムにより公知し、次の問題点や課題が浮上した。

現代的なニーズであるWeb上の情報化に至っていない。国際的な公知に必要な英訳が極僅かな上、海外状況の把握もできていない。美術教育研究に関する論文執筆方法論が集約されていないため、公知された美術教育文献や解題を有効に活用できる人材が斯界に十分に育成されていない。

そのため本研究では、①データベース公開のためのWebサイトの構築、②国際的なアーカイビングの調査・研究、③『日本美術教育主要文献解題』編纂の継続と英訳、④論文執筆方法論集の刊行、⑤連続公開研究報告会での基調報告とアーカイビング資料を活用した論文執筆方法論の講演、⑥美術教育文献展覧会の開催、⑦学会等での研究発表や論文執筆と英訳等々を行う。

### 2. 研究の進捗状況

#### (1) データベース公開とWebサイトの構築

本科研関係者によるアーカイビング研究会Webサイト [<http://www.ae-archiving.jp/>] を構築し、研究の概要、熊本文庫総目録11,521点、解題執筆者136名による日英対訳を含む日本美術教育主要文献252冊の解題等々を2008年4月、Web上に公開し、2010年2月に134冊の解題を追加した。2008年8月制作の日英対訳A4判4頁パンフレット【「美術教育文献」のWebサイトを初公開! / The Art Education Documents website Debuts!】を同月の第32回国際美術教育学会)世界大会in大阪や諸学会で頒布した。

## (2)アーカイビングの国際調査・研究

2009年3月にアメリカのメトロポリタン美術館とシカゴ市美術館、同年8～9月にイタリアのフィレンツェとヴァチカンの美術館、フランスのルーブル美術館、スペインのピカソ美術館等々を訪問し、教育担当者への面談調査を実施した。その日英対訳の公開、イギリスほかの美術館教育担当者への面談調査を準備している。

## (3)『主要文献解題』編纂と英訳

2010年4月現在で、美育文化協会の協力を得て『美育文化』誌における2007年度以降に執筆された解題の合計は163冊、うち本科研関係者執筆分の日英対訳を進めている。

## (4)論文執筆方法論集の刊行

連続公開研究報告会での講演内容の執筆を進め、日英対訳による刊行を準備している。

## (5)連続公開研究報告会の開催

アーカイビング資料を活用した論文執筆方法論の講演を毎年度開催してきた。

本科研メンバーによる「アーカイビング研究会」の主催で2007年度は7月24日に《美術教育ジョイント出版記念会 2007in 東京》と題して第1回、11月14日に滋賀で第2回の連続公開研究報告会を開催した。2008年8月6日に第32回InSEA国際美術教育学会世界大会2008in大阪の招待セミナー「20世紀後半の日本美術科教科書研究と現代日本の美術科教科書編集」にて基調報告を行った。

以後は「ライティング・リサーチ」の名称で開催し、東京にて2009年3月14日に第1回、7月31日に第2回、11月7日に第3回、2010年1月10日に千葉にて第4回の論文執筆方法論の講演、最新の基調報告を行った。

## (6)美術教育文献展覧会の開催

同上の計6回の連続公開研究報告会にて、論文執筆方法論の講演にも対応した講演内容に関連の美術教育文献展覧会を開催した。

## (7)研究発表および論文執筆

研究代表者は毎年度、学会等で3～5件の口頭発表と1件の論文執筆を継続し、研究分担者も多数の研究発表を実施している。

## 3. 現在までの達成度

当初の研究計画以上に進展している。

(理由)

Webサイト [<http://www.ae-archiving.jp/>] の2008年4月公開による本科研内容の公知、藤澤英昭と山口喜雄が2008年8月開催の〈第32回InSEA国際美術教育学会世界大会2008in大阪〉で招待セミナーを実施した。特筆すべきは、日本の美術教育文献アーカイビングの要とも言うべき美術科教科書に関する

11年間の日英対訳の論文『20世紀後半の日本美術科教科書研究／Study on the Works Introduced in Art Textbooks in the Last Half of the 20th Century in Japan』を世界大会参加者に頒布できたことである。

## 4. 今後の研究の推進方策

前述の(1)～(7)の課題に取り組む。最終年度なので、解題・論文執筆方法論・国際調査等を日英対訳記載の報告書Ⅱ『AEライティング・リサーチ(仮称)』の刊行、第5回ライティング・リサーチを10月に開催予定である。本科研終了後の新たな展開も準備する。

## 5. 代表的な研究成果(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔報告書〕(計1件)

山口喜雄, 藤澤英昭, 柴田和豊, 天形健, 春日明夫, 福本謹一, 永守基樹, 新関伸也, 宮脇理, 宮坂元裕, 本科研報告書Ⅰ『山口喜雄著(1998～2008執筆論文)20世紀後半の日本美術科教科書研究【日英対訳】／By Nobuo Yamaguchi (Written between 1998～2008) Study on the Works Introduced in Art Textbooks in the Last Half of the 20th Century in Japan [Japanese-English parallel translation]』〈第32回InSEA国際美術教育学会世界大会2008in大阪〉開催記念刊行／Published in Honor of the 32<sup>nd</sup> InSEA World Congress 2008 in Osaka, Japan, 301, 1-333, 2008.

〔雑誌論文〕(計136件)

山口喜雄, 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(11)－平和題材に関する考察, 日本美術教育研究論集第43号, 10, 81-90, 2010.

〔学会発表〕(計29件)

山口喜雄, 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究－「個性」に関する掲載作品の考察, 第32回美術科教育学会, 2010年3月27日, 仙台.

〔図書〕(計17件)

春日明夫, 『戦時下の造形 資料が語る／教育・遊び・生活』インフォテック, 76, 1-76, 2010.

〔その他〕

山口喜雄, 藤澤英昭, 柴田和豊, 天形健, 春日明夫, 福本謹一, 永守基樹, 新関伸也を含む136名, アーカイビング研究会Webサイト [<http://www.ae-archiving.jp/>], 2008年4月2日, Web上に公開.

山口喜雄, 藤澤英昭, 柴田和豊, 天形健, 春日明夫, 福本謹一, 永守基樹, 新関伸也, 「美術教育文献」のWebサイトを初公開!／The Art Education Documents website Debuts!, 日英対訳A4判4頁パンフレット, 2008, 第32回InSEA世界大会や学会等で頒布.